

平成28年度

音 楽 研 究

第47号

群馬県高等学校教育研究会音楽部会

巻頭言

研修会等への参加の、お礼と勧め

部会長 上田 裕信
(群馬県立太田高等学校 校長)

平成28年度の事業が、計画に沿ってつつがなく終了しようとしています。廣澤・清水・松村・清田副部会長をはじめとした役員、そして音楽部会に連なる全ての皆さんに、心から感謝申し上げます。

思い返せば、校長事務引継のために天田前部会長から太田東高校の校長室に呼ばれたのは、去年の3月末の日曜日でした。あらかた話が終わって、ついのように「音楽部会長は事務局長のいる学校の校長が務めることになっている」と言われ、そんなものかと深く考えもせずじに了解してしまいました。後からよく見れば、天田校長が部会長を務めていたのは、そんな単純なことではなかったことが見えてきました。飯田勉教頭がいたことや、奥様がバリバリの音楽関係者であること、などなど……。

とはいえ、この1年、部会長を引き受けて後悔したことは一度もありませんでした。(…アッ、この原稿を事務局長が「原稿締切日は明日になっていますが…」と依頼に来たときには、ちょっとだけ後悔(?)したかな)

高体連や高文連では、門外漢の校長が部長となることが普通にあっても、高教研の部会長が教科外の校長というのは、他教科ではまずありません。未だに、他校の校長先生等から「何で(数学の)上田が音楽部会長なのか」と問われることもあります。立場上する各行事での挨拶も的外れが多くて、部会員の皆様には迷惑の掛け通しだなどという自覚もありますが、「事務局長のいる学校の校長がやることになっている」を逆に楯に取って、深く悩まずに厚かましく、各行事に参加させてもらいました。生徒の演奏の優劣や研修内容の細部等、私には分からないことだらけですが、理解とは関係なく音楽の調べやリズムが、まずは心地よくしてくれます。そして何より参加されている先生方一人ひとりの真剣さが、何よりも心を打ちます。演奏会での生徒たちの姿とともに、研修会での先生方の姿からも元気がもらえる、私にとっては貴重なリフレッシュの機会となっています。

人数の多い教科の研修会には、学校の代表で義務的に参加している人が少なからずいるものです。しかし、音楽科の場合は校内には専門家は一人が普通ですから、本部会の研修会では、参加者から、ある意味の危機感も感じられます。その上、研修のテーマ設定の妙もあって、素人の私さえ、内容にまで引き込まれます。20年近くも前のことになりましたが、当時の数学部会長が繰り返し「我々の拠って立つべき所は、飽くまでも数学(教科)だ」と言っていました。「舞台」に立つためには恒常的な練習が欠かせないことを、身をもって知っている音楽科の先生方が研修に臨む態度に、教科研修の原点を見る思いです。挨拶だけして帰るつもりで行っても、ついつい、半日、一日と長居をしてしまいました。

今年度の研修会になかなか参加できなかった部会員の皆様、一人しかいない教科で出張しにくい状況である方も多いたは思いますが、早めにやりくりの予定を立てて、来年度は是非、ご参加ください。必要があれば校長先生にお願いの電話もしますから。

目 次

巻頭言

音楽部会長

上田 裕信 (群馬県立太田東高等学校長)

活動報告

I	平成28年度群馬県高等学校芸術祭音楽部門団体演奏会	1
II	平成28年度群馬県高等学校芸術祭音楽部門個人演奏会	5
III	平成28年度夏季研究会	10
IV	平成28年度授業研究会	
	第1回授業研究会 (群馬県立藤岡中央高等学校)	26
	第2回授業研究会 (群馬県立高崎東高等学校)	36
V	部会演奏会	48
VI	第22回群馬県高等学校総合文化祭	52
VII	平成28年度講演会	53
	群馬県高等学校教育研究会音楽部会会則	56
	平成28年度群馬県高等学校教育研究会音楽部会会員名簿	58
	役員一覧	